

## 言語能力を統合して解決する問題②（第2学年）

報告者 島崎智朗

### 1 第2学年における問題出題の意図

第2学年の問題数は4問である。各問の内容と意図を下記に示す。

- ・ 問題1は、3人の会話文と2つの絵図を見比べ、問題文に合う会話をしている人物を選ぶ問題である。3人のうちの1人は公園で見付けた生き物について、あとの2人は学校で見付けた生き物について会話をしている。その根拠を絵図から判断し、正答を導き出す。問題文を正確に理解すること、会話文と絵図を正確に見比べることが必要となる。
- ・ 問題2は、文章の内容と絵図に描かれていることが合っているかどうかを判断する問題である。全4問が全て合っていなければ誤答となるため、1問1問を正確に判断することが求められる。また、絵図には多くの情報が描かれているために、必要な情報を読み取る力も必要である。
- ・ 問題3は、2つの絵図を見比べ、自分は学校と公園のどちらで生き物探しをしたいかを答える問題である。問題場面を自分に置き換え、自分の判断基準を踏まえて記述していたら正答である。
- ・ 問題4は、附属小学校の周りにはどんな生き物が見付かるかと思うかという、自分の体験から推測して答える問題である。実際の体験から答えていても正答であるが、きちんとその生き物がいると考えられる理由を記述できるかどうかポイントである。

### 2 調査の結果及び考察

表1 R4年度（6月→11月）とR3年度（6月→2月）における各問題の正答率（%）

年度\問題		1	2	3	4
R4	○	94.9→97.0	53.1→71.7△	37.8→55.6△	75.5→84.8
	△			53.1→30.3▼	3.1→5.1
	×	5.1→3.0	46.9→28.3▽	9.2→14.1	21.4→10.1▽
	無	0.0→0.0	0.0→0.0	0.0→0.0	0.0→0.0
R3 (昨年度 2年生)	○	90.8→98.0	56.1→64.3	8.2→58.2▲	64.3→88.8▲
	△			6.1→26.5▲	27.6→2.0▼
	×	9.2→2.0	43.9→35.7	85.7→14.3▼	8.2→9.2
	無	0.0→0.0	0.0→0.0	0.0→1.0	0.0→0.0

※6月より10%以上差異がある値は△（増加）か▽（減少）、20%以上なら▲（増加）か▼（減少）

表1から、問題2の正答率の上昇が顕著であることがわかる。読解力の側面「自分事として事物を捉え、正確に判断する」ことが必要であり、その点において伸びが見られる。また、問題3の正答率の上昇が顕著である。創造的思考の側面「アイデアや概念を説明することができる」に関わる内容であり、自分の考えや思いを説明する力が身に付いてきているといえる。ただ、正答率としては50%台であることから、文章で分かりやすく説明するという点については継続した取り組みが必要であると考えられる。さらに、問題4については、正答率の上昇とともに、記述した文章の量にも変化が見られる。また、「りゆうは」「なぜか」というと」といった理由を説明する言葉も使うことができるようになっている。

### 3 特に伸びがみられた児童とインタビュー結果及び考察

A児 25%→100% B児 50%→100% C児 50%→100%

① 11月のテストで気を付けたことはどんなことか。

3人とも、文章と絵を一つ一つ見比べることを意識したこと。問3に関しては、自分の気持ちを文章に書くことを意識したことを答えている。問3については、題意をきちんと理解している結果であるともいえる。

② 力がついたと思う学習はあるか。

3人に共通して挙げられたのは生活科である。理由としては、2人の児童は生活で季節の生きものを見つけたり、野菜を育てたりした経験が生きているということ。1人の児童は、予想してから考える力がついたと答えている。また、国語科で文章を書く力。算数科で自分の考えを図で表す力がついたという答えがあった。国語科に限らず、様々な教科の学習が本テストで生きていると実感できていた。